

名 称	中野市子どもセンター
所 在 地	〒383-8614 長野県中野市三好町一丁目 3-19
連 絡 先	TEL : 0269-22-2111      FAX : 0269-22-5923 URL : <a href="http://www.city.nakano.nagano.jp/">http://www.city.nakano.nagano.jp/</a>

## 地域の現況・特色

活動対象地域の人口      中野市    46,550人

中野市は長野県の北東部に位置し、市のほぼ中央を千曲川が流れ、東方に志賀高原と西方に斑尾山を配した北信州の中心都市として発展してきた。産業は農業が盛んで、りんごや巨峰の栽培では全国でも有数の品質と生産量を誇っているほか、早くからエノキタケの栽培に取り組み、キノコや果樹、野菜、花卉の施設栽培の先進地として知られている。

また、童謡「シャボン玉」の作曲者で知られる中山晋平、唱歌「ふるさと」の作詞者で国文学者の高野辰之は本市の出身で、本市に伝わる信州中野土人形は広く人気を呼んでいる。

新市が誕生して2年、「緑豊かなふるさと 文化が香る元気なまち」を都市像にまちづくりを積極的に進めている。

## コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「中野市子どもセンター事業」～地域教育力を活性化し、地域と学校の相互理解促進～

### ◆教育ボランティア講師紹介の窓口として

中野市子どもセンターでは、市内の学校からの相談・要望に応え、授業のテーマや目的に沿って、地域講師の紹介や体験学習の受け入れ先の紹介などの教育ボランティアに対するコーディネートを行っている。また、地域の団体、グループ、公共施設へ生徒が参加できるボランティア機会確保の依頼、地域の団体からの生徒に対するボランティア募集の相談、生徒自身からの活動発表機会の依頼・相談などを行っている。

平成17年度、市内の学校から依頼のあった案件は、小学校のクラブ活動、中学校の地域連携講座・総合的学習・選択授業、高等学校のキャリア教育・総合的学習などの講師紹介や体験学習の受け入れ先の紹介などであり、コーディネート数は延べ55人、43事業所であった。

学校から当センターへの依頼には、中学校の選択授業や高等学校のキャリア教育のように、年間を通じたものや、地域連携講座や総合的学習などのように短期間のスポット的なものと

がある。コーディネーターは、学校からの要望を詳しく聞き、その要望に応えられる人材や事業所をピックアップし、どういう特色を持ち、どんなことに応えられるかを学校に伝えるとともに、その講師や事業所の事情を伝え、学校側の要望や授業の目的との調整を図っている。その際、コーディネーターは、依頼する講師や受け入れ事業所に、地域教育の意義や授業のねらい、学校の要望を伝え、十分な打合せをしている。最終決定した後、直接、学校には講師や受け入れ事業所と細部の打合せをしていただくこととしている。

#### ◆地域と学校の連結ピンとして

今、地域や家庭の教育力が低下し、その分学校や教師への期待が増し、それに応えようとする教師の多忙感が高まっているといわれている。それを解決の方向へ導くためには、まず地域の人々と学校との相互理解が促進される必要があると思う。両者が親近感を深め、もっと身近に感じられる存在になることであり、これは、児童生徒にとっても地域に近づくという意味をもたはらずである。

学校の授業に、地域の専門性のある魅力的で多彩な経験や思考をもつ人材に協力を得て、それを活用することは、子どもたちが身近な郷土や社会の生きた姿を学び、社会における人と人のつながりのすばらしさを感じることができる。子どもたちは、地域の意欲的で情熱を持つ人々の存在を知り、世の中の多様性や可能性を理解してきている。今では、生徒自身が自分で実習したい事業所へ出向き、お願いするという中学生がでてきて、受身であった授業を主体的に学ぶ力がついてきたように思う。

学校にとっては、様々な分野での地域の人材を、効果的、効率的に活用でき、学校を支援してくれる地域の人材のリストが積み重なってきたところである。

また、地域講師や受け入れ事業所は、子どもたちのために時間を割き、事前準備や内容に様々な工夫をこらしている。授業終了後には、「私が勉強になりました。」「母校以上にこの学校のファンになりました。」などの感想が届いている。これらは予想外、期待以上のことであった。

さらに、この事業に取り組んできて、学校に対する地域の協力が日常化してきており、地域の人々の中に学校教育に自己の経験を活かすという気運の醸成を感じている。今、センターが確実に地域と学校との「連結ピン」になってきている。

## コーディネートの実際

### ◆中学校選択授業のコーディネート

#### 1 中学校からの依頼

当センターに、市内中学校から2年生の選択授業「社会」における外部講師の紹介と講座の展開について相談があった。それは、1年間（毎週水曜日午後、50分間）、「郷土」の様々な分野を地域の方から学ぶということであった。

#### 2 コーディネーターと担当教師との打合せ

担当教師と面談し、趣旨と要望の内容を詳しくお聞きし、学校と当センターの連携について打合せを行った。1年間の授業を学校と当センターが協力して構築していくこと、講

座テーマに合わせて講師を紹介すること、指名する講師の場合は講師にテーマを合わせる  
こと、授業の進め方は講師に任せることなどを確認した。

講座の名称は「身近な郷土の社会」～こんなこと・あんなこと・そうなんだ～とし、分  
野は「郷土の歴史・文化財・農業・企業・商店・まちづくり・生活・生きる」とする。テ  
ーマ（内容）はいくつかの候補の中から学校で決めていただき、それに合わせて講師を紹介  
すること、また、担当教師と講師との打合せは丁寧に行うなどを打ち合わせた。

### 3 コーディネート

分野やテーマに合わせて、地域の適任の方を選考し、学校教育支援の意義を理解してい  
ただいた。また、学校では生徒に何を伝えていただくことを期待しているかを説明した。  
講師からは、「こんな内容はどうだろう」「こんな風に進めたいが」と提案されることもし  
ばしばあった。

コーディネーターとして最も重視していることは、授業の終了後、講師に感想をお聞き  
するとともに、生徒が授業で感じたことや授業での生徒の様子を講師にフィードバックす  
ることである。そのために、できるだけコーディネーターはその授業に参加させていただ  
いている。

## ◆市内高等学校のキャリア教育支援

### 1 市内高等学校からの依頼

市内高等学校から当センターに、キャリア教育での8ヶ月間（毎週火曜日午後、100分  
間）にわたる実習・体験授業の受け入れ先および講師の紹介・コーディネートの依頼があ  
った。「郷土の時間」として、郷土の自然・農業・農産物加工・商店・工場・福祉施設・  
文化財・歴史・産業経済の分野での実習や体験、講義である。

### 2 コーディネーターと担当教師との打合せ

実習・体験は市内の事業所や施設とすること、受け入れ先の事情により受け入れ人数及  
び受け入れ日数が異なる可能性があること、受け入れ先と学校及びコーディネーターとの  
事前打合せは綿密にすること等を確認した。

### 3 コーディネート

事前に、受け入れ事業所の状況を調査し、受け入れ方法、実習・体験内容を検討、学校  
と事業所を調整する。事業所が決定次第、直接学校から依頼していただく。学校では、事  
業所に実習予定生徒の名簿を提出し、作業場等での配置をお願いする。

実習・体験内容は、バラ園でバラの出荷作業、ワイナリーでワイン用ぶどうの苗木の定  
植、米パンづくりに挑戦、きのこの加工品製造、スーパーマーケットで商品陳列、地元新  
聞社で取材体験、お菓子屋で和菓子づくり、地域のイベント「バラまつり」でスタッフと  
して販売や来客案内、地元企業への1日入社体験などであった。

コーディネーターは、実習・体験終了後、事業所から事業所での生徒の様子や受け入れ  
の感想をお聞きし、次回の実習・体験のコーディネートに役立てている。

## ◆コーディネートの成果と課題

地域の人や事業所に生徒の実習・体験の受け入れを依頼するときに、まず配慮すべき点  
は、多くの受け入れ先は比較的小規模であることから、どうしたらその日常の業務に支障  
を来さないで実習が実施できるかであった。生徒にとっては、実習での活動が受け入れ先  
から感謝されるものであることが最善である。しかし、実際には、小規模事業所での実習

はその従業員の業務に多大な支障を来し、負担をかけてしまう。その恐れがあるときは、実習日数を短縮したり、他の事業所への変更をお願いしており、実習する生徒の人数も事業所の希望人数に合わせた。後日、事業所には、学校からの感謝の気持ちや、生徒が得た成果を伝えて、指導いただいた労に報いるように配慮した。

受け入れ先で指導していただいた方々は総じて、生徒の笑顔や明るい態度に実習の満足感を感じるようである。それを通して学校支援への役立ち感を実感されている。事業所に働く人は若者と直接触れ合うことを望み、熱心に指導される。生徒も初めて出会う社会人の前で、素直であり、本来の自分の表情を垣間見せる。そんな人と人のつながりのすばらしさを、実習を通して生徒は実感した。

今後、生徒が自ら学びたいことを見つけ、それに地域の人が応え、生徒はそこで学んだ成果を地域社会の中で実践することを実現する支援をしていきたい。



中学校選択授業



高等学校キャリア教室

執筆者職・氏名：中野市子ども部 子どもセンター所長（嘱託） 塚田 喜久